

## ■ 環境分析時、“扱えない型のスペクトルファイルが指定された”のエラーが出る

FAQ No. : FAQ2001-011	DOC Rev. : 1.1	公開日 : 2008/09/03
対象 Version	ガンマスタジオすべてのバージョン	
対象 MCA	全般	
キーワード	環境分析、CHN 型スペクトルファイル、ファイル名、フルパス名	

### 【ご注意】

- ・この文書は、お客様の所有される環境で発生する可能性のある事象に対する一般的な対応策を記述しております。
- ・特定の環境では対応策が適当ではない場合も予想されます。
- ・対応策に関して弊社が保証あるいはサポートを付加するものではありません。

症状	
原因	対策
<p>環境分析時、CHN 型のファイルであるにもかかわらず“扱えない型のスペクトルファイルが指定された”のエラーメッセージが表示される。</p> <p>エラーメッセージの“扱えない型のスペクトルファイル”は、分析対象のスペクトルファイルでなく、バックグラウンド補正用のスペクトルファイルを指すものと判断されます。</p>	
<p>分析関連ファイルが深い階層に置かれているため、パス名の長さ制限を超過している</p> <p>分析関連ファイルとは、 核種ライブラリファイル(.liv) エネルギー校正ファイル(.ene) 効率校正ファイル(.eff) カスケードテーブルファイル(.sum) P/T 校正ファイル(.ptt) バックグラウンド補正用のスペクトルファイル(.chn) ピーク領域指定ファイル(.ara) をいいます。</p>	<p>分析関連ファイルは、フォルダ名を含めたパス長が 61 文字を超えない範囲でご使用ください。</p>